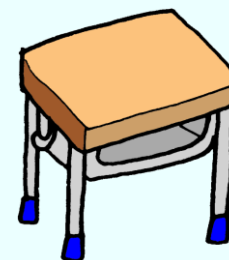




山 田 地 域



市立小・中学校の  
将来のあり方について

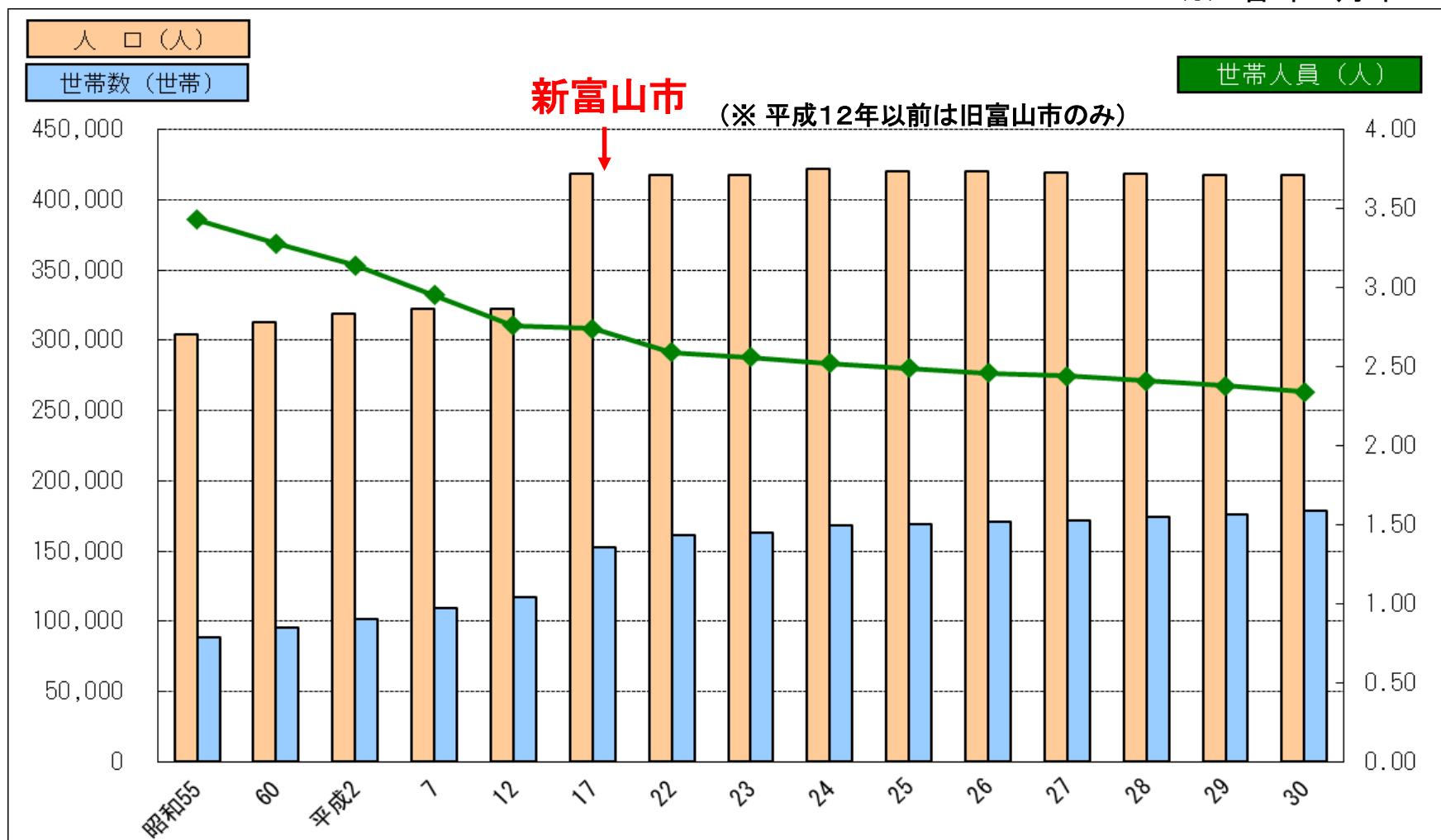


富山市教育委員会

# 1 富山市全体の状況

## (1) 人口の推移

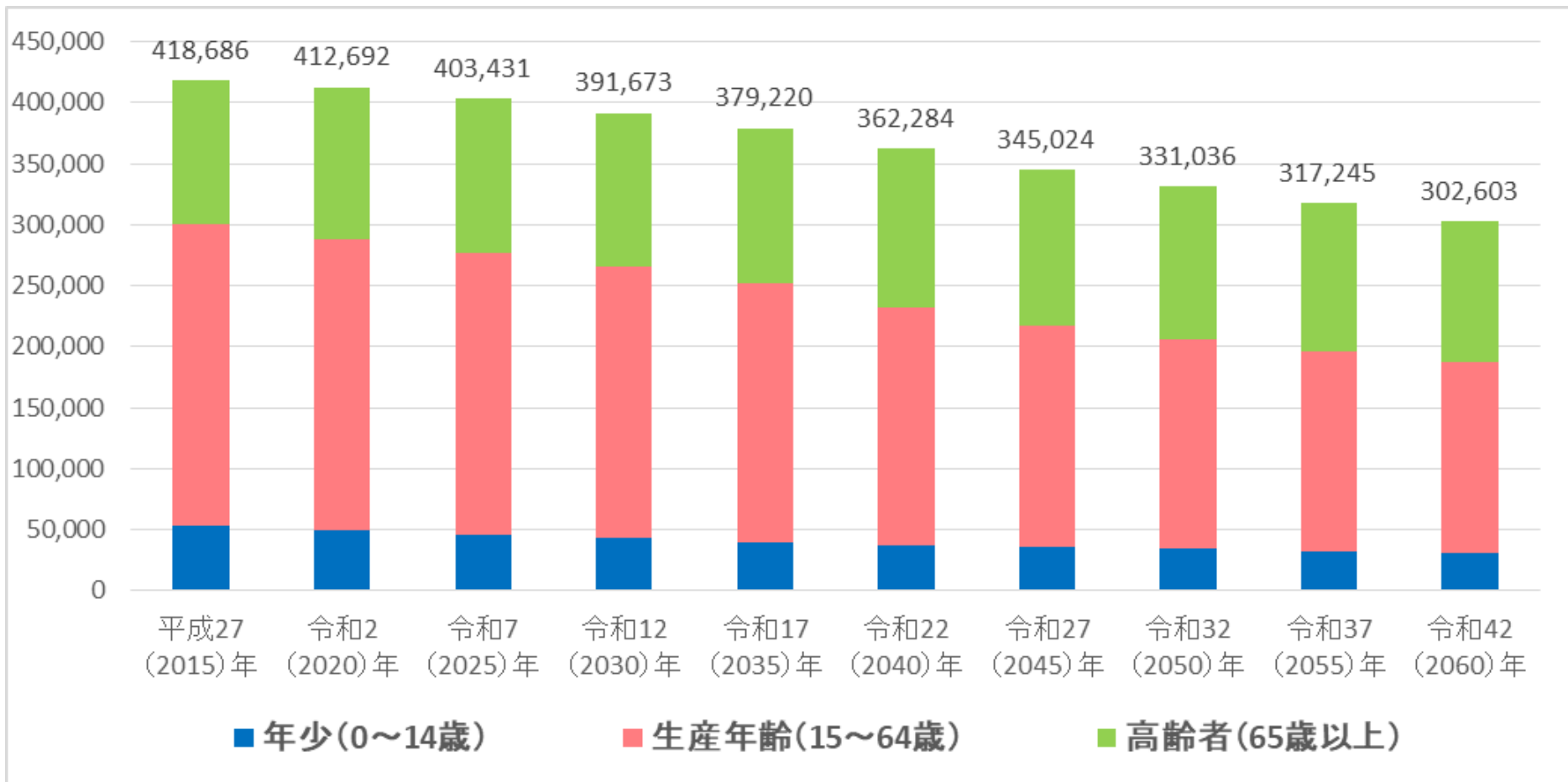
※ 各年9月末



# 1 富山市全体の状況

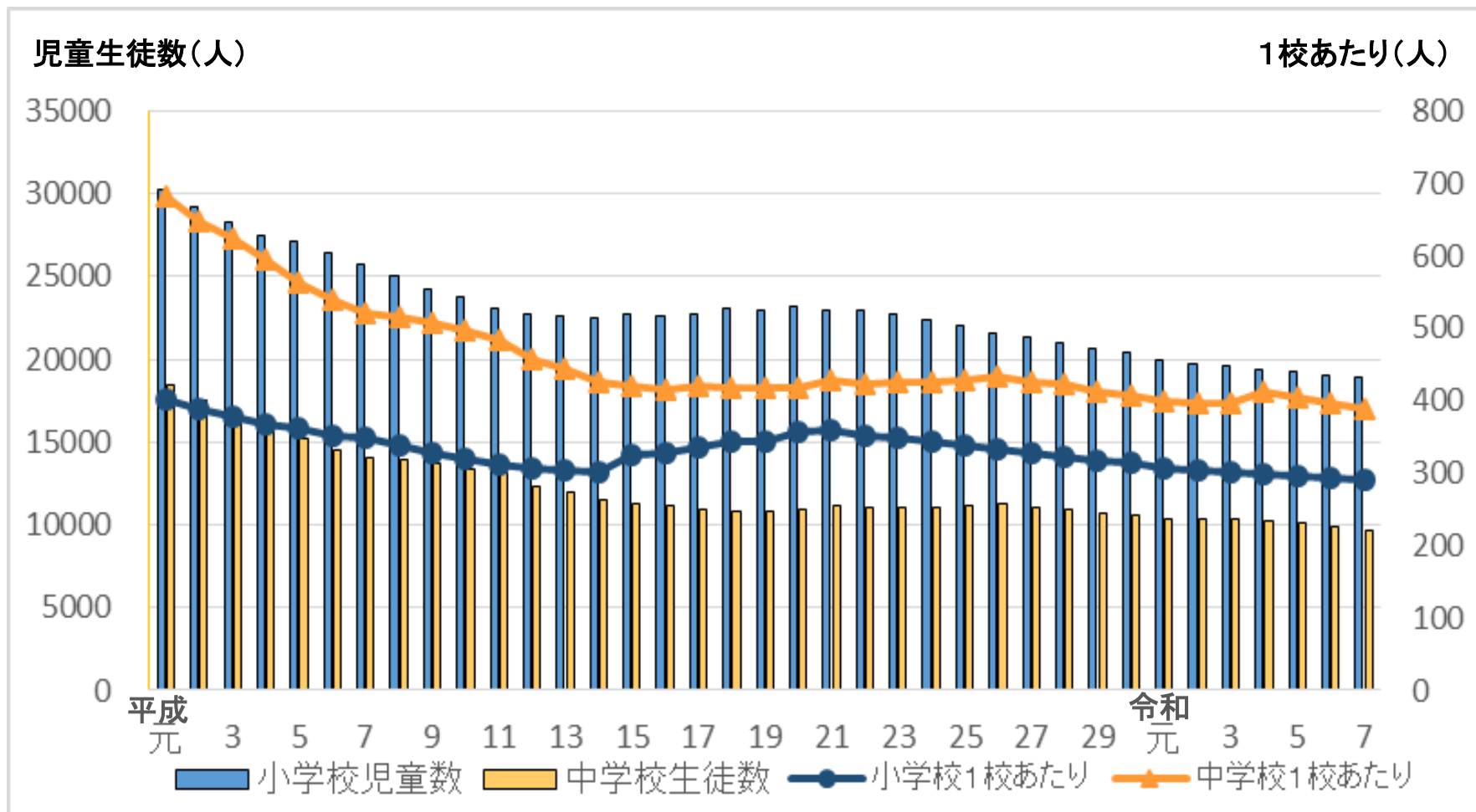
## (1) 人口の推移

人口(人)



# 1 富山市全体の状況

## (2) 市立小・中学校の児童生徒数の推移



# 1 富山市全体の状況

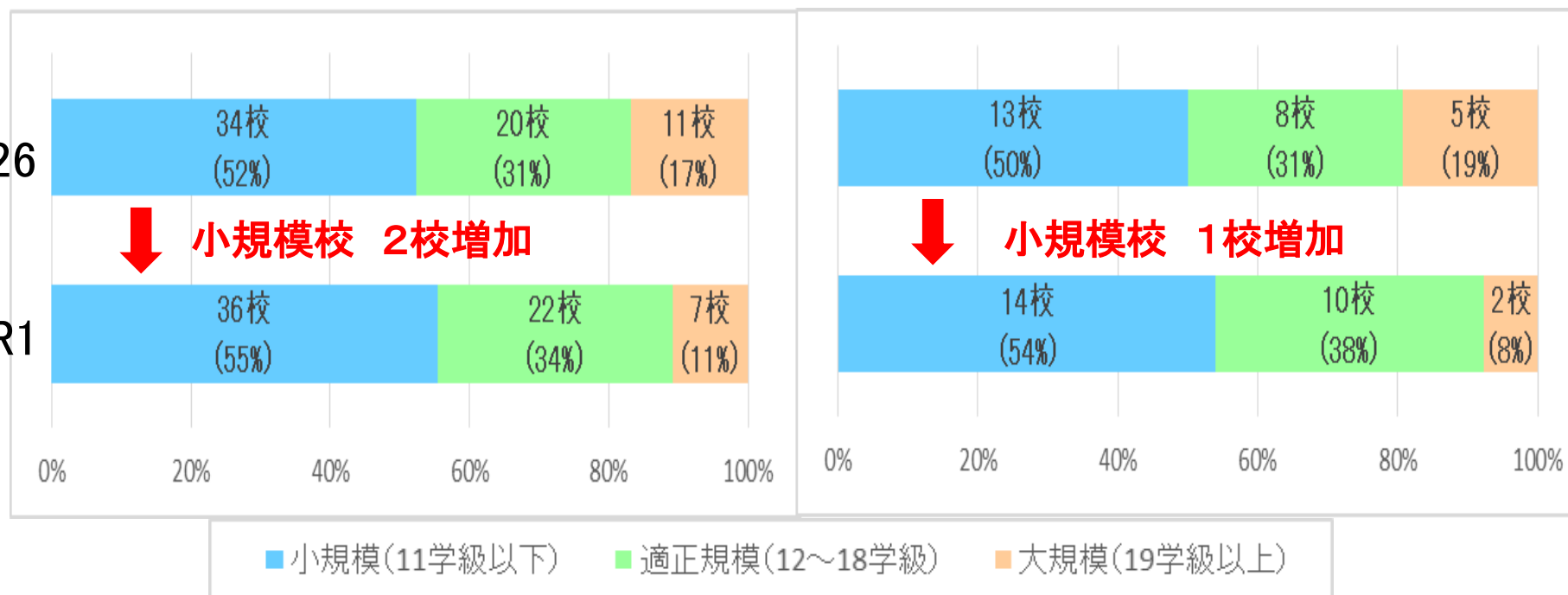
## (3) 市立小・中学校の学校規模

標準（適正規模）：1校あたり12～18学級

(※学校教育法施行規則)

### 小学校

### 中学校

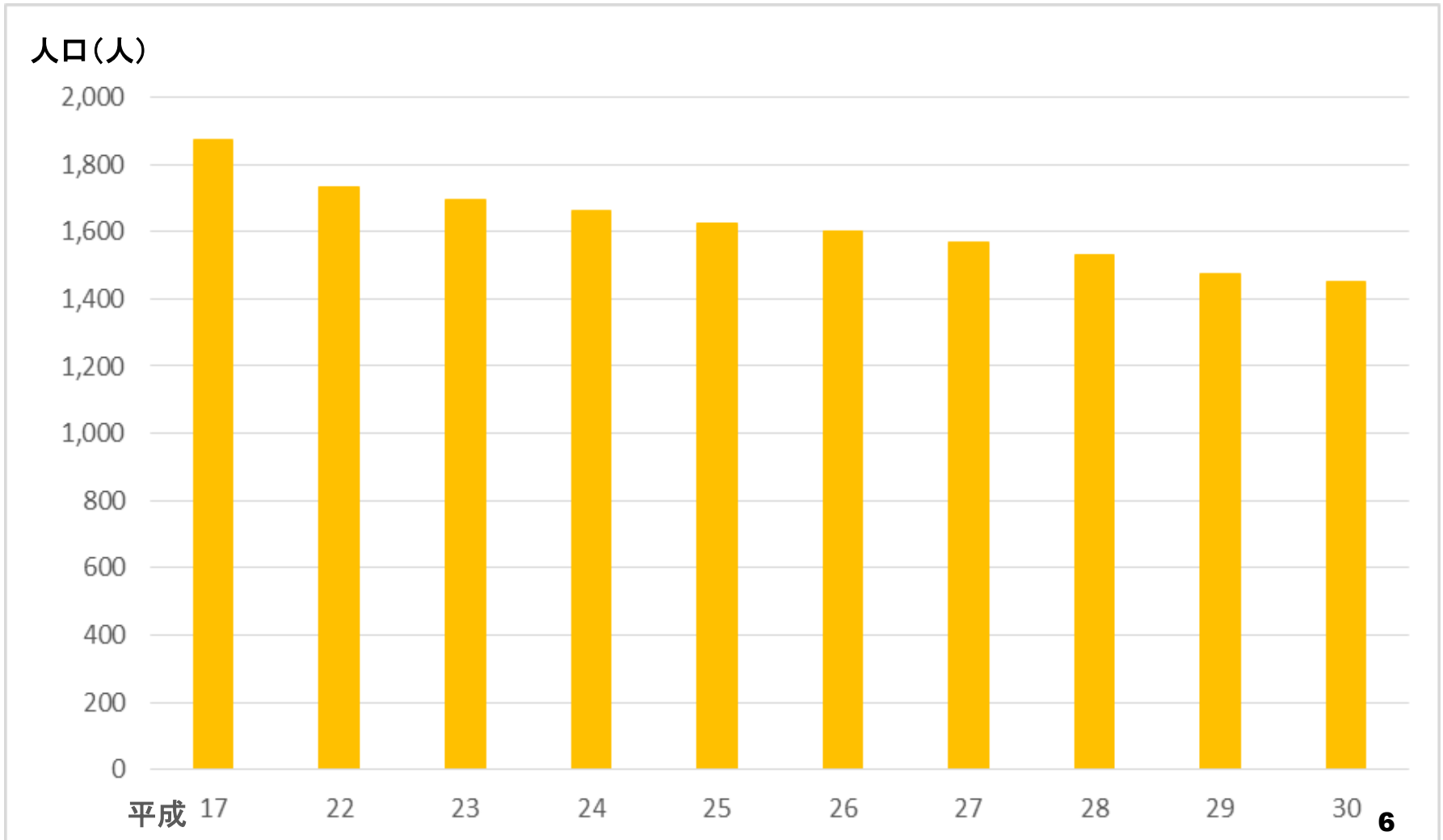


市立小・中学校の5割以上が小規模校

# 2山田地域の状況

## (1) 人口の推移

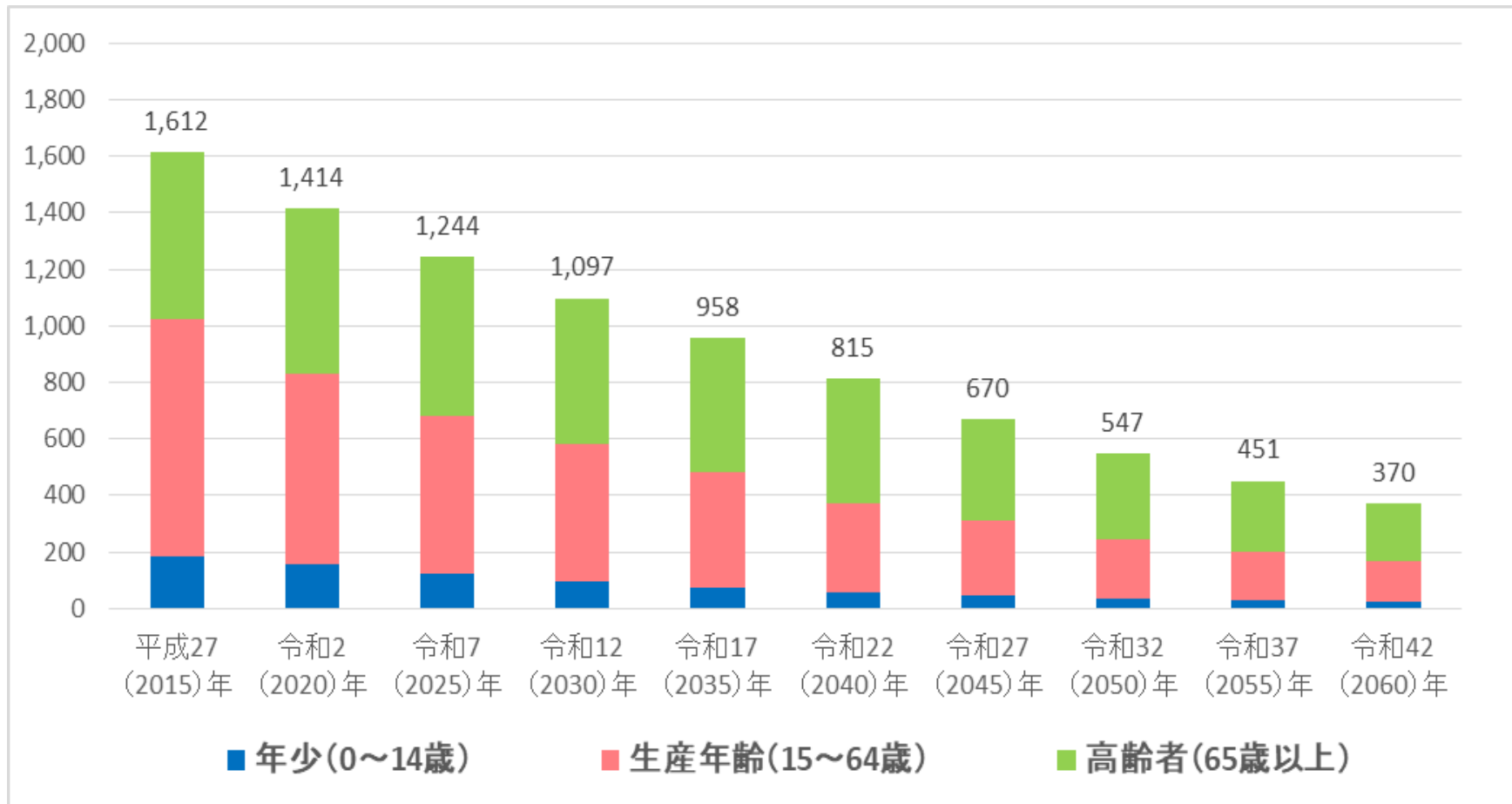
※ 各年9月末



# 2山田地域の状況

## (1) 人口の推移

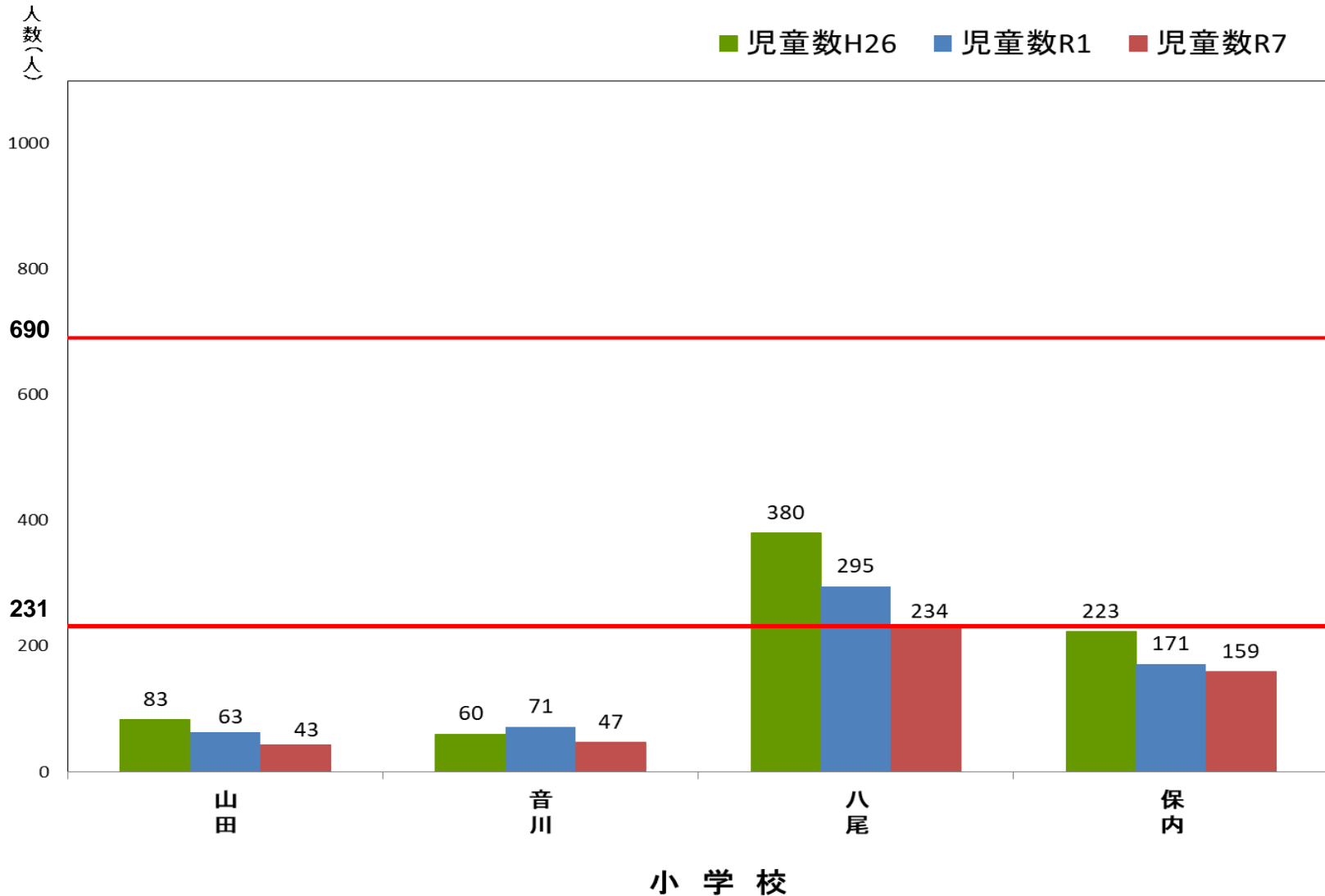
人口(人)



※「富山市公共施設マネジメント アクションプラン戦略編」の人口推計を基に作成

# 2山田地域の状況

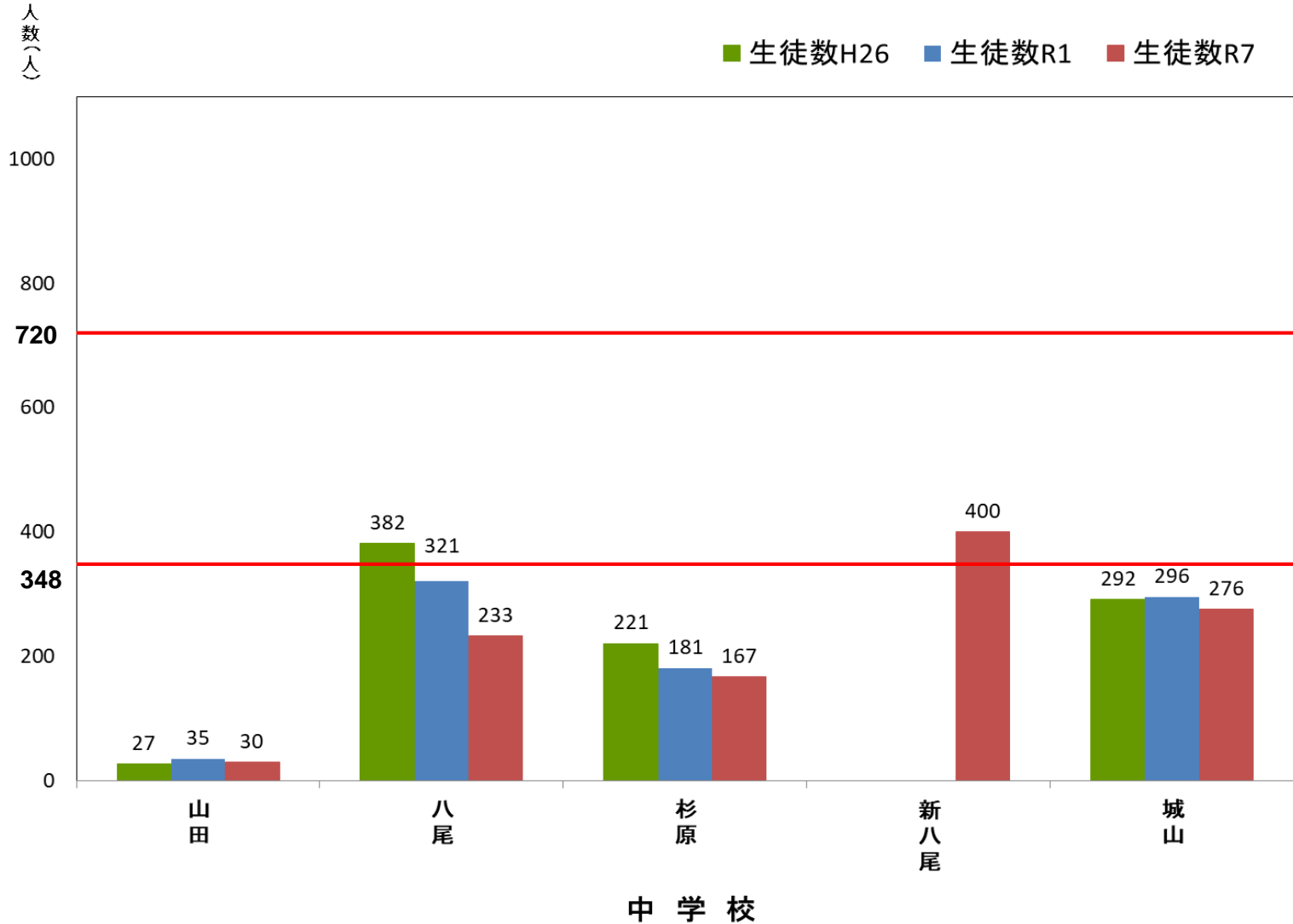
## (2) 児童生徒数の推移(見込み)





# 2山田地域の状況

## (2) 児童生徒数の推移(見込み)




## 2山田地域の状況


### (3) 学校規模の推移(見込み)

児童数(人)

小学校	年度	学級数	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
山田小	H 2 6	6	10	14	15	12	18	14	83
	R 1	6	9	11	10	9	14	10	63
	R 7	4	5	7	7	9	11	4	43
音川小	H 2 6	5	14	11	11	10	10	4	60
	R 1	6	8	12	18	13	7	13	71
	R 7	5	4	6	7	9	7	14	47
八尾小	H 2 6	13	58	48	62	64	68	80	380
	R 1	12	46	48	39	55	48	59	295
	R 7	10	32	38	30	43	50	41	234
保内小	H 2 6	9	26	36	34	47	37	43	223
	R 1	7	37	27	16	31	37	23	171
	R 7	6	22	20	29	31	27	30	159

 適正規模 (12~18学級)

 複式学級


 小規模 (11学級以下)


## 2山田地域の状況

### (3) 学校規模の推移(見込み)

生徒数(人)

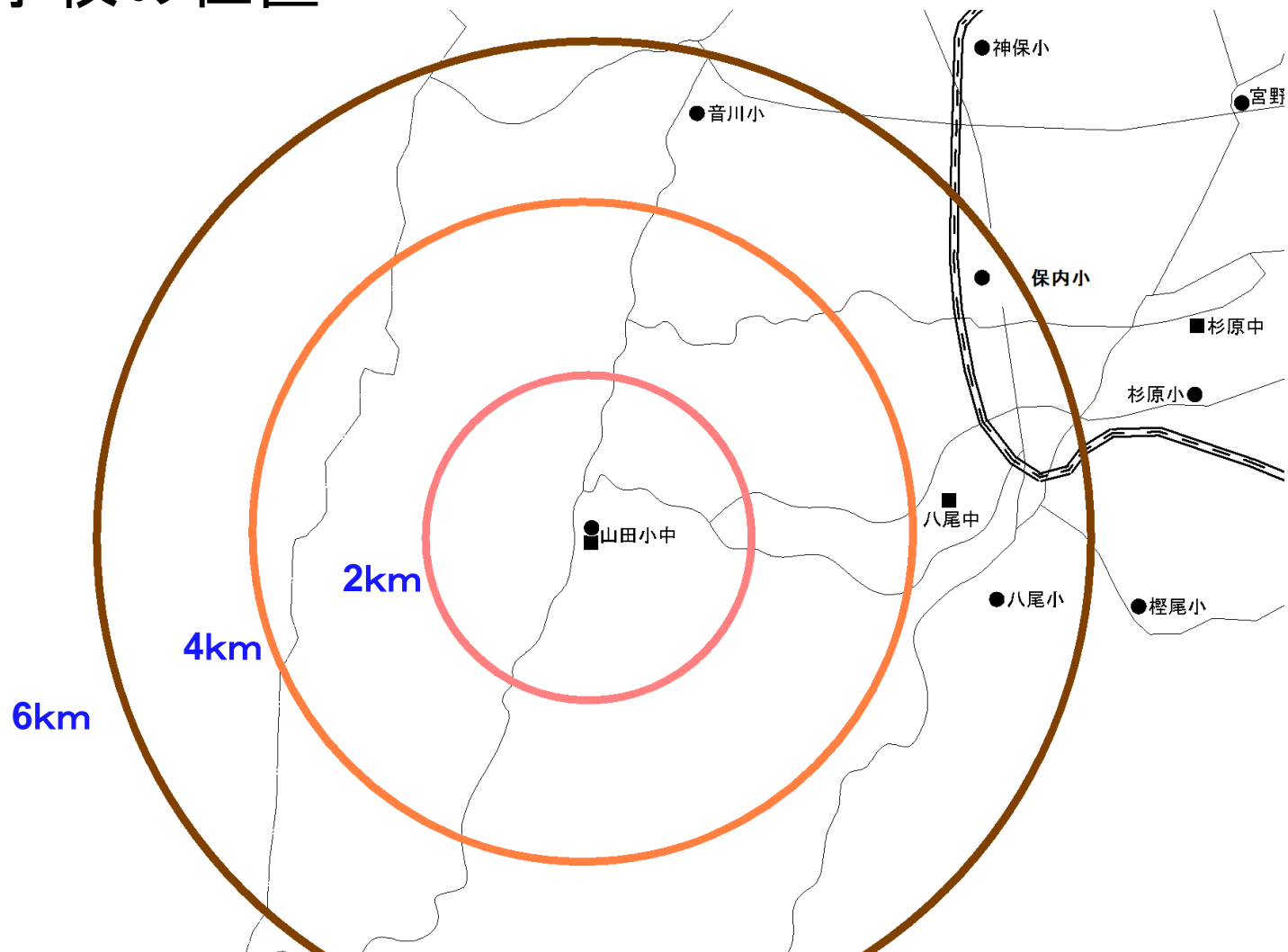
中学校	年度	学級数	1年生	2年生	3年生	合計
山田中	H 2 6	3	12	8	7	27
	R 1	3	12	13	10	35
	R 7	3	9	11	10	30
八尾中	H 2 6	12	120	127	135	382
	R 1	9	93	109	119	321
	R 7	7	91	78	64	233
杉原中	H 2 6	7	63	82	76	221
	R 1	6	60	63	58	181
	R 7	6	48	48	71	167
新八尾中	R 7	12	139	126	135	400
城山中	H 2 6	9	107	95	90	292
	R 1	9	96	92	108	296
	R 7	9	81	93	102	276

 適正規模 (12~18学級)

 小規模 (11学級以下)

# 2山田地域の状況

## (4) 学校の位置



## 2山田地域の状況

### (5) 学校の沿革(建物状況)

#### 山田小学校・山田中学校

H17.7 小・中学校校舎改築工事起工式

H18.12 小・中学校一体型校舎完成

H19.3 小・中学校校舎改築工事竣工式

小・中学校一体型校舎にて現在に至る

### 3 小規模校における教育

#### (1) 小規模校のよさ

- 一人ひとりの子どもに対して、きめ細かな指導ができる。
- 学校行事で子どもたちの活躍の場が多い。
- 他学年や地域の方と交流活動がしやすく、親交を深められる

### 3 小規模校における教育

#### (2) 小規模校の課題

##### 小・中学校共通

- クラス替えがないため、多様な考えに触れる機会や、社会性や規範意識を身につける機会が得られにくい。
- 体育のバスケットボール等の団体競技や音楽の合唱等が行いにくい。
- 経験年数、専門性、男女比など、教員をバランスよく配置できない。

## 3 小規模校における教育

### (2) 小規模校の課題

#### 小学校

- 複式学級となる場合には、教員が複数学年分の指導準備を行うこととなり、各学年へのきめ細かい指導が行いにくい。
- 教務主任が学級担任を兼務するなど、一人の教員にかかる負担が大きくなる。

#### 中学校

- 9教科10科目すべての教員がそろわず、一部の教員が専門以外の教科の授業を行わなくてはならない。

※ 教科担当教員の配置 1校3学級→6人

⇒ 9教科10科目の対応が難しい

- 開設できる部活動の数に制約が生じる。



## 4 適正規模、適正配置に向けた取り組み

### (1) 小規模校

- ① 学校の統合
- ② 学校選択制の導入
- ③ 小規模特認校制
- ④ 通学区域の見直し

### (2) 大規模校

- ① 学校の分離
- ② 施設の増築
- ③ 通学区域の見直し

## 5 学校規模に起因する デメリット緩和に向けた手段

### (1) 小規模校

- ① 教員の加配置や複数校兼務
- ② 小中一貫教育、義務教育学校
- ③ ICT機器の活用

### (2) 大規模校

- ① 教員の加配置

# おわりに



児童生徒数の減少に伴い、学校の統廃合は将来的に避けて通れない大きな課題です。

学校の標準規模化を図るなど、次代を担う子どもたちにとって、地域・保護者・教育委員会が一体となって、よりよい教育環境となるよう考えていく必要があります。

